

光円寺報

2011年 2月

〒679-2323 兵庫県神崎郡
市川町甘地 384
後藤明照、由美子(惟蓮)
T&F 0790-26-0162
メール kouenji_dayo
@nifty.com
<http://kouenji-hou.com/>
通信費年間1000円

阿弥陀如来の本願というのは
私たちの闇の部分も含めて
そのまま受け入れて下さる
ということですよ

竹中智秀



仏教徒宣言(その八十六)

今年の寒中は、近年になく雪が積もったりちらついたり、山降ろしの寒風が吹き荒んだり、寒さが厳しい日が続きました。立春前後からは少し暖かさを感じられるようになり、春の気配が感じられるようになりました。

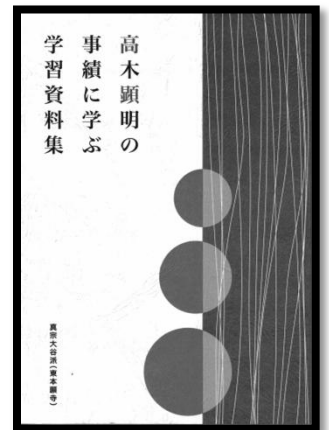
しかし暮らしの状況は、「超氷河期」と言われる就職難の中、完全失業者が二九八万人という状況があり、政界・相撲界でも、次々と話題に事欠かない事件が起こり、先の見えない迷界に入り込んでしまい、出口が見つからないような厳しい状況にあります。世界に目を向けてもモスクワの空港での、「テロ」と言われる爆発により、多くの死傷者が出る事件が起こったり、エジプトでは民主化を求め、支配者を退陣させるような大きなデモが起こっています。そのデモの中心的存在が「自分にふさわしい人生を送る権利」を求める青年たちです。エジプトはその青年たちが生まれたときから今まで、同じ一人の大統領が政治の実権を握り続けている国なのです。それが何を物語っているかはそのデモの拡がり方でわかるのですが、新聞テレビではほとんど報道されず、何が起きているのがよくわかりません。

それにひきかえ相撲界の「八百長」問題は嫌というほど報道されているようです。しかしそれを報じる側は総てをありのままに損得の利害を超えて、映像や声・文字として伝えていくのでしょうか。スポンサー付き、表に現れる数字の視聴率や販売部数で一喜一憂する資本主義のこの世において、おそらく色んな柵(しがらみ)があつて、伝える側は恣意的にならざるを得ないのかも知れません。そんな所から考えてみると報道されているそのことが既に八百長という要素を孕ん

でいるように思われます。この世界は八百長だと。八百長ということは、「いんちき」ということでその対義語は、「ガチンコ」。「真剣」ですが、要するに誤魔化しているということです。今、騒がれているこの問題は、相撲界だけの話ではなく、私たち一人ひとりがかどこまで真剣にガチンコで生きているかが問われているようにも思えます。だからこのことを自分に引き当てて考えてみると、結構自分を誤魔化し、自分に嘘をついて「八百長の」な生き方をしまっている私自身が見えてきます。そうするとこの世もこの身も八百長のだということになります。

曾我量深さんは「赤表紙と新聞の間に身を置いて自己を問え」と言われています。この身はこの世に存在し、身が世を支え、世によってこの身が作られる。その「身と世」が「赤表紙」。「教え」から問われているです。又、仏説阿弥陀経には、お釈迦さんが阿弥陀の浄土の素晴らしさを説き、諸仏もその浄土をほめ称え、そこに往生する様に勧めます。まず諸仏は、娑婆世界の五濁悪世に私たち衆生のために説かれた法は世間において信じ難き法だと言っています。そして釈迦は、一切世間のためにこの難信の法を説くと言っています。これは身を持つ衆生の救いと同時に世間を救うという命題を掲げているということ。この難信の法というのが「南無阿弥陀仏」です。それを称え、その謂れを聴き続けていくというのが念仏者の生き方なのでしょう。「念仏」は、一切衆生を救済することと同時に一切の世間を救う真言なのです。衆生を救うということ。衆生によって成り立っている世間をも救うということ。衆生を救い衆生が織りなす世間を救うのが「念仏」なのです。

南無阿弥陀仏 釈明照



「高木顕明の事績に学ぶ
学習資料集」

真宗大谷派（東本願寺）

二〇一〇年六月出版

「発刊によせて」冒頭より

宗務総長 安原晃氏

このたび、長年にわたり顕明師の事績を偲ぶ「遠松忌」を勤められ、歴史の掘り起こしに携わってこられた大阪教区「高木顕明の事績に学ぶ実行委員会」の方々と共同して、『高木顕明の事績に学ぶ学習資料4』を発刊いたします。

今年（二〇一〇年）は、大逆事件から一〇〇年という節目の年です。

近代の宗門の歴史を振り返る時、我が宗門は、宗祖親鸞聖人が「愚禿釈親鸞と名告られた心に背き、内部においては差別を温存し、戦争に際しては国家へ積極的に協力したことのみならず、幾多の過ちを繰り返してまいりました。

今、あらためてこれらの過誤の歴史を直視していく決意が要請されています。一九九五（平成七）年六月宗議会並びに参議会においてなされた「不戦決議」はその決意の一つの表現であります。そこには「賜った信心の智慧をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を借しまないことを決意」と誓っています。